

グローバル補助金奨学生 保川様のプロジェクトを共有いたします。

1

PROBE: 洋服ダンスの最大限利用というアイデアを使った、環境汚染を防ぎ人々が必要な服を必要な分だけ使うことを奨励するアプリケーション

<https://www.yuriyskw.com/probe>

問題定義: 米国で年間 70 ポンドの服(一人あたり)捨てられ、また、ソーシャルネットワークの影響で自分を「よく見せよう」とすることによる社会的影響が及んでいる。

ファッション業界では、年間必要以上分の服が作られることで環境汚染の原因にもなっている。こういった問題に対し、洋服を最大限に活用し、必要最小限でありながらあらゆるニーズに対応する便利なファッション商品の購入を促すにはどうすればよいか？

また、「見た目」にとらわれ自己嫌悪に陥るサイクルにどのように歯止めをかけられるのか？

洋服ダンスの最大活用+アバターというアイデアを活用したアプリケーションにより、パーソナライズされたレコメンデーションを活用して、この問題の解決を探る。

2

OwnAir: 産業革命以来汚染に向けて右上がりの大気汚染を人々がより身近に感じ、理解し、行動を促す地域密着型の教育プラットフォーム

<https://www.yuriyskw.com/ownair>

プロジェクトビデオ(英語)[https://youtu.be/7\\_ngbvrw930](https://youtu.be/7_ngbvrw930)

問題定義: 気候変動、大気汚染といった問題は近年増え続けており、AQI(Air Quality Index)が良好であっても、私たちは昔に比べて3倍以上の汚染に毎日さらされており、長期にわたる被害は私たちの健康に悪影響を及ぼしている。

しかし、インタビューによるとサンフランシスコの住民のほとんどは、大気汚染について心配していない。

人々の気づきを促し、必要な知識とサポートをどのように提供できるのか？

大気汚染に向かう様々なアプリケーションや AI 技術が開発される中で、こういった技術を最大利用できるのか？

気候変動による健康被害が増加の一途をたどる中、私たちは住民の意識を高め、大気汚染に関する知識を身につけ、さらなる汚染を防ぎ、大気汚染者に影響を与えることができるようなコミュニティを作るための解決策を探る。

その他、海外留学生の支援を援助する学校内プログラムと連携した留学生の生活をサポートするプロジェクトや、慢性的な病気を持った患者さんを支えるためのシステムづくりなどのプロジェクトにも取り組みました。

上記の2つは特に好評を頂き、2つ目のプロジェクトは Rotary クラブの John Mathers さんにもアドバイスを頂いたプロジェクトです。

なお、こちらのリンク(自身のポートフォリオ)には、システムデザイン、モーションデザインなどの小さなプロジェクトも掲載しております。

<https://www.yuriyskw.com/playground-system>